

寺報 善 巧

発行
〒938 富山県下新川郡
宇奈月町浦山497
白雪山 善 巧 寺
☎宇奈月(07656)X5-0055

寺
こよみ
十月

一日 お講 板屋
一六日 お講 三日市
一八日 日曜学校おにぎり大会
一九日
二〇日 善巧寺報恩講

宗門は同信のよろこびに結ばれた同朋教団であって、信者はつねに言行をつつしみ、人道世法を守り、力をあわせて、ひろく世の中にまことのみのりをひろめるようにつとめる。また深く因果の道理をわきまえて、現世祈禱や、まじないを行わず、占いなどの迷信にたよらない。——ホンコさんは「信心のみぞさらえの日」ともいわれます。右の宗風に照らして自問してください。

二二日 若手落語の会 夜七時半 乞ご来場
二九日 板屋 報恩講
三〇日



空華廬よみがえる——九月に開かれた行信教校OBの研究会

報恩講勤修

布教 本願寺 布教使 浦田秀栄 師

十月十九日 逮夜(後一時) 初夜(後七時)
十月二十日 晨朝(前八時) 満座(後一時)

今年も報恩講の季節が参りました。例年のように十月十九日、二十日と、善巧寺本堂で賑々しく勤修されます。新しい装いの「巻障子」そして「金柱」は、御承知の如く、来年の三法要を控えての準備です。

生まれ変わった本堂の荘厳を、共に喜びましょう。

十月末から十一月にかけて、寺々の報恩講に夫々二日間参ります。荻生・若菜・生地・三日市・内山と、報恩講仲間のお寺が六カ寺あります。夫々に、前住の法事の勤まる寺、庫裡の改築をした寺、新しくお嫁さんを迎えた寺等々、何れも門徒と一丸となって、御住職が精進努力しておいでになります。

善巧寺では、御門徒の報恩講廻りは、十月末から、明年三月迄続きます。年内に全部を廻ることは不可能ですので、雨の日も、吹雪の日も、休むことは出来ません。

一年一度の報恩講を、待ち受けておいでになる皆様方の姿勢には、世に「仏教王国」と言われている越中の真宗門徒の伝統が感ぜられます。今から丁度五年前、明教院二百年の御法要勤修を決定し、御門徒各位の浄財、懇志を五年にわたり、報恩講廻りの際に毎年頂だいて参りました。早いもので、今

報恩講を迎えて

年から明年にかけての報恩講廻りは、その最後の年廻りに当たります。

毎年の寺費と共に三法要懇志を頂きつづけて五年、その間、夫々色々の事情のある中を御苦勞をかけて参りました。

初年度は、予算通りの徴収が出来なかったと思います。丁度、新築の年に当たって家計が苦しく、出たくても出せないと言った家もありましたし、病人が二人も出てお困りの家もありました。

そんな御宅でも、二年目、三年目には、定額以上に出示して下さいました。

本堂に報恩講に参るたびに、御門徒の方々の法要に對する熱意に、感慨を新たに致す次第です。

四年目、五年目となると、完納された上に、柱の懇志巻障子の懇志と、次から次と御助成を賜りました。

それでも、愈々、明年の法要を迎えて、最後の御助成を頂かねば不足の面が多々ございます。

今年の報恩講廻りには、応分の御助力を御願ひ致します。

住職 雪山 俊之

明教院僧鎔は何を説いたか

空
華
と
と



明教院
僧鎔 伝

空華学轍の思想 ④

勸学寮頭 桐溪順忍師

本有仏性の否定

空華学轍のもっとも特色のある思想の一つは本有仏性否定の思想である。しかも、この思想が真宗教学の中心である行信論助正論の基礎にもなるものであるから、もっとも注意すべきものである。一切衆生悉有仏性という思想は「涅槃經」以来の実大乘といわれる仏教の定説となつてゐるものであつて、初期宗学においては、ほとんど問題にもならなかつたのである。浄土真宗において、これが問題になつたのは、宗学が研究されて、浄土に往生するのが如来の願力、名号によるものであるとの他力思想が深く考えられるようになってからである。具体的には、月峯

（二六七一—一七一九）の時代であるといわれている。しかしこれが大きく問題になつたのは、僧鎔柔遠両師からだといつてよいだろう。しかも、信心仏性説を明瞭に主張し、本有仏性を否定したのとは柔遠からであるといつてよいのである。本有仏性の問題は、一切衆生に成仏する可能性が本来あるかどうかについての問題であつて、一切衆生が成仏するという大乘仏教においては、衆生には本来仏性があるといわざるを得ないのである。因果律の立場からいえばそれは自力・他力の相違があるにしても成仏するという果が生ずることは果の生じない前に、果となるべき可能性のあることをあらわすものである。だから、それは阿弥陀如来の仏力他力によるものにして真宗の信者が、名号を信じて成仏するのであるから、名号

衆生に仏のタネはない

を信すれば成仏するという仏性は、当然私に存在しているのだということが出来るのである。因果律のものの考え方は、果が生じたという事は、果にならないう前に、その果の生ずべき因の存在を認めるものである。だから、自力他力の別はあるにしても、成仏という結果が生ずるということとは、成仏すべき因のあることを、それ自身があらわすものである。この意味で僧叡（一七六二—一八二六）が本有仏性を「聖浄起化の宗源」と、仏性は聖道教にしても浄土教にしても、その化導のおこる根本であると、因果律の問題としたことは注意すべきであつて、この因果の立場にたつきりには

一切衆生の本有仏性は肯定せねばならないのである。しかし、二種深信の機の深信の立場、救われて行く者の喜びの立場からいえば、私にたとえそれは如来廻向の名号であつても、名号の廻向にあずかれば成仏する可能性が本来あつたのだと思ふならうか。絶対他力とは、自力の無限否定だといった意味もそこにあるのである。その絶対他力の思想からいえば、本有仏性は否定せなければならぬのである。この意味では、本有仏性を肯定

するか否定するかは、あくまで因果の論理の立場にたつか、信者の救ひの慶びの心情に立つたの相違ともいえるのである。この点では宗学は単なる論理ではなく、阿弥陀如来に救われる者の慶びの論理であるという立場を忘れてはならないのではないか。この意味で現在ひろく学界で用いられている「無自性仏性説」も、この説を説いた道振（一七七三—一八二四）も「無自性空とは仏智見の立場からいふものである」といつている。如来の立場からいえば、衆生に成仏の可能性のあること、如来との連続性のあることは論をまたないものである。絶対から絶対へは連続だが、相対から絶対へは断絶である。とは、哲学者の常にならうと

ころであつて、如来（絶対）から衆生（相対）へは連続であるが、衆生より如来へは断絶であるといつてよいのである。だから、この説を考へるときには「仏智見」であるということもはもつとも注意すべきである。ことごとく仏のたまりもの僧鎔師の本有仏性否定の論理はあまり明瞭ではなく、柔遠師も信心仏性以外には宗祖には仏性というべきものはないと力説されているが、その論理については十分につくされたとは思わないのでありこれが完成されるのは、善譲（一八〇六—一八八六）鮮妙（一八三

五—一九一四）の遍満仏性説であらう。この説は十分ではないが、僧鎔師の時からあつて、如来の正覚は久遠であり、阿弥陀如来は法界身であり、衆生の心中にも遍満しているからその仏性も無始より存在しているのである。だから、衆生に存在しなかつた時はないがそれは衆生本来のものではなく、仏性の遍満によるものだと主張があり、これは衆生に有する仏への志向性はことごとく如来よりのものであるという、絶対他力の思想から来るものである。

寺
ごよみ

十一月

- 一日 お講・愛本新
- 六日 上野・報恩講
- 十三日 中陳・報恩講
- 十四日 お講・浦山新
- 一六日 魚津・報恩講
- 一七日 出・報恩講
- 一九日 中新・報恩講
- 二〇日 柳沢・報恩講
- 二四日 浦山新・報恩講
- 二六日 石田・報恩講
- 二八日
- 三〇日

よみがえる空華廬



北陸の行信教校OB善巧寺で研究会

空華の流れをくむ行信教校の北陸OB十数名が、九月十一・十二の両日、善巧寺に集まり参じて、第一回の真宗学研究会を開きました。

富山の里村了学師、芦崎の浦田秀栄師をはじめ、福井、石川、富山に行信教校を出た僧侶がかなりいらっしやいます。そうした方々が一堂に会して、真宗学の勉強をするのは、これがはじめてのこと。講師には、行信教校の梯（かけはし）

実圓師を招き、まず本堂でおつとめをしたあと、空華の祖、明教院のお墓に参り、寺の奥座敷、空華殿で二日間にわたって講義を受けました。

また、十一日の夜は本堂で法座も催され、僧俗共にお正信偈のおつとめをし、先生の明解かつ味わい深い法話を聴聞いたしました。

この研究会は今後年一回、福井と富山で開かれることになり、うち富山の会は、やはり空華のふるさと善巧寺でということに決まりました。

明教院僧録師の二百回忌法要を、来年にひかえての空華廬の復活に、ゆるがぬ法脈と、深いご縁をよるこぼすにはおれません。



ここにも明教院さまいらっしやる

親と子のおまいりバス旅行で、この夏はポートピアと明教院ゆかりの地めぐり。

水橋の渡辺さん（僧録の生家）や上市の明光寺（勉学の地）を訪れたあと、ハイウェイを走って大谷本願へ。ここの勧学溪へおまいりして、正面中央に明教院のお墓をみつけたこともたは「へえー」こんなにはえらい人だったのー。

みんなでお花をかざり、お香をたいておまいりさせていただいたことでした。

ぬ

抜け駆け 比叡山の居士林に二日間の入山をしたときのことです。

道場について、日程をみると、研修が始まるまで、まだ一時間ほどヒマがある。夏で暑くて少々疲れていたこともあって、仲間と共に涼しい道場でゴロリと横になつたものであります。——しばらくして、いよいよ開講です。まず指導にあたる先生のお言葉。

「あんた方は、この居士林へ、居眠りにこられたんですか。この一時間、じっと観察させていたのだし、荷物は放ったらかし。掃除の道具は用意してあるが見向きも

しない、みんな寝ておる。いったい、どういふつもりなんですか」

アイタタツ、一同顔をしかめて頭を下げるばかり。そして次の朝、山道を駆けめぐるランニングの時。例の指導員が大声で「二列

一口説法

縦隊、駆け足進め！」と号令。五十人ばかりの研修生はかけ声よろしくスタートを切ったことでした。

一*余り走ってゴールについたとき、列はもうバラバラです。そこでまた、一喝。

る

「これがあんた方の本性だ。ちょっと元気なヤツは、弱いものを押しつけて抜け駆けする。恥ずかしいのかね。駆け足ぐらいならまだいい。しかし、あんた方は、娑婆のレースでもこれと同じことしてるのと違うのか。あさましいと思わんかッ！」

流れ落ちる熱い汗が凍りつくような思いをしたものであります。

留守 獄中のドロボーが忍びの術を語るというテーマを聞いたことがあります。

まずは目をつけた家が留守か留守でないかを知らねばならないわけですが、新聞とか牛乳が門口にたまっている家は間違いなく留守

とわかる。これはドロボー仲間でも常識だそうですが、つぎなるは少々デリケートなポイント。夕方、日が落ちてあたりがだんだん暗くなってくるころ、台所や居間、あるいは玄関に灯がつかない家——これはねらってもまず失敗はない、とのことでした。ご用心。

ところで、心がお留守になっている人を見分けるにはどうすればいいか。これはドロボーさんに聞かなくてもわかることで、毎日忙しく働いている人は、みんな心がお留守、空っぽなのであります。忙しいとは読んで字のごとく、毎

日あわただしく動きまわっていると、落ちていて自分の心を見つめてみるヒマもない。自分が何のために生きているのかも忘れてしまっているわけです。そう、忘れるという字もまた同じような意味でして、心の中にかつてあったものが見えなくなるといふことであります。

心の中にかつてあったもの——それが一体何なのかということをも忘れて、日暮らしに追われ、忙しく働いているあなた、心をお留守にしないでしっかりと戸締まりをいや違った、心のカギを開けて自分自身を見つめなおしてみましようよ。

「慶びの春、まであと半年!!」

慶びの春 ■宗祖誕生 800年
◇57年4月29日

■宗 祖 700回忌
■明教院 200回忌
◇57年11月3~5日 聞法の秋



熱気あふれる8月の総代会

一般寺費の五倍の募財を六年間つづけるという方針を変え、今年度（来年三月末迄）がその最終の年になっています。これにより当初の事業計画のほとんどが円滑に進められてきました。が、内陣の荘厳だけは当初の予算では手

善巧寺総代会は八月十九日に開かれ、法要の年五十七年の青写真を検討し、この十月に「法要実行委員会」を発足させることを決めました。

善巧寺の大法要の計画は五年前から進められ、門徒の方々の協力で、建設、教化両面の充実をはかり、現在、最後の仕上げともいべき内陣の荘厳にとりかかっています。

慶びの春、聞法の秋。善巧寺の大法要はいよいよ来年にせまりました。春の法要は親鸞聖人誕生八百年慶讃法要は御門主をお迎えして四月二十九日にとめられますが、指折り数えるあとと半年さあ、五年間にわたる長い準備期間でしたが、やっとその努力が実を結ぶわけ。門信徒の皆さんと一丸となって、最後の仕上げにとりかかることにいたしました。

金門徒の積極参加を呼びかける 8月19日 夏の総代会

がまわなくなり、広く門徒の方々から特別のご寄進をおおいでります。

ところが、この特別寄進、昨年から受け付けをはじめたのですが、予想をはるかに上回り、この一年で内陣二十本の丸柱の金箔をはじめ、巻障子四十二枚の修復も、この報恩講までに完成する運びとなりました。またこの日の会合でも、春の法要までに必要とされる前卓、五具足等の募財についても、報恩講まわりの折に広く金門徒の方々に呼びかけようということになりました。ご協力よろしくお願いします。

法要実行委 今秋結成

さて、こうして、すべての計画が来年度に向けて進められているわけですが、いよいよ春の法要まであと半年。このあたりで実行委員会を結成して、役割の分担や、法要の運行等に関して綿密な打ち合わせをする必要があるのではないかと、この出席者全員のご意見で、今年の報恩講をメドに実行委員会を発足させることになりました。

この実行委員会は、三法要理事や総代さんに限らず、婦人会や壮年会、世話人の方々など、広い層から、実行力のある方々にお願いします。

また、この日の総代会で五十五年度の一般寺費会計の決算と、同五十六年度予算案が審議され一部手直しの後可決されました。

これによると五十五年度は宗費が半分以上ですみましたが教化費

や、豪雪の除雪費等の雑費がかさみ、一二万六、〇七十一円の赤字となりました。しかし、前年度から比べると予算のワケが一五〇万から一〇〇万へと縮小されておられ、結果的にはかなり切りつめたにもかかわらず、人件費等の計上などで実績をあげたことなどが評価されました。

次に五十六年度の予算ですが、三法要の年でもあり、極力切りつめて五十五年度と同じ一〇〇万円のワケ内でおさめ、余りはすべて三法要へつぎ込んで来年春、秋の大法要を成功させようとのことでした。

最後にもう一度、確認させていただきますが、三法要推進のため募財計画は当初とかわりはなく今年度つまり十月から来年三月まで行われる門徒報恩講まわりで、昨年と同額の懇志をお願いいたしますのでよろしくご協力のほどをお願いします。

55年度決算

収入	1,050,040円	支出	1,176,111円
決算	予算		
①荘厳費	51,700	50,000	
仏用品費	30,000	30,000	
供花供物	21,700	20,000	
②教化伝導費	116,400	50,000	
法要費	26,400	20,000	
教化費	90,000	30,000	
③維持費	879,561	600,000	
営繕費	165,161	100,000	
人件費	202,000	200,000	
事務会議費	40,000	30,000	
保険費	80,000	80,000	
光熱費	170,000	150,000	
雑費	222,400	40,000	
④宗費	128,450	300,000	

56年度予算

収入	1,000,000円	支出	1,000,000円
①荘厳費	50,000		
仏用品費	30,000		
供花供物	20,000		
②教化伝導費	50,000		
法要費	20,000		
教化費	30,000		
③維持費	725,000		
営繕費	100,000		
人件費	202,000		
事務会議費	30,000		
保険費	80,000		
光熱費	150,000		
雑費	163,000		
④宗費	175,000		

着々進む内陣莊嚴

寺の本堂の内陣莊嚴は門徒の方々の積極的な協力で着々と進められており、七月の金柱の完成についてこの報恩講には四十二枚の巻障子が見事に仕上がって目見えする予定です。

この巻障子修復は現在三十数名の方が一口五万円円の寄進を寄せて下さっており、完成時までにはすべての寄進者が決まるようです。

一方、これまで寺になかった内陣中央の前卓は、うるみ仕上げの六鳥型の

最上品を目下京都で調製中。値段は百八十万という高価なものです。こちらも一口五万円以上という事で、門信徒の婦人層を中心に募財をすすめている最中ですので協力下さい。

また、その前卓の上に置かれる五具足については、枋屋の野畑一雄さん、生地の船屋幸吉さんからお声がかかり、残すは花立一對(四八万)だけになりました。

なお、来年の春の法要までにはこのほか、打敷、みす、戸帳など必要なものがかなりありますので出来るかぎり、広く門信徒の方々にご協力をお願い申し上げることにしています。

特別寄進者に感謝状



寺の本堂の二十本の金柱をご寄進下さった方々が、七月の永代祠堂会の御満座で表彰されました。これは、私たちの寺を私たちの手で進めてきました寺の三法要の事業の総仕上げともいえるべき内陣莊嚴のトップを切って完成した総額五二一萬八、〇〇〇円にのぼる金箔柱を率先してかついで下さった方々への感謝の意を表わしたもので、寺からの感謝状の他、柱の裏には一本一本、名前の刻んだ銅板がはめこまれました。

またこの日、本堂の五色の幔幕

寺の寄進下さった野畑松二さん、田中静治さんにも感謝状が贈られました。

金柱の寄進で表彰された方は次の通りです。

橋場啓次(富山)、川瀬久義(東狐)、菊地良造(浦山)、藤沢正雄(栃沢)、開沢弘(栃沢)、野島重二(浦山)、本波光雄(浦山)、清水久二(下立愛本)、橋爪伊佐夫(下立愛本)、尾沢初雄(中新)、中山慶太郎(浦山)、鬼原勝次(浦山新)、浦山新門徒中、開沢弘治(栃沢)、大野弘恵(中陳)、島田松伊(板屋)、川内作一(栗虫)、谷口小一郎(魚津)、根塚卯一(生地)、佐々木繁作・佐々木助一・佐々木与作・野村五郎(音沢)、櫻義孝(浦山)、川瀬達也(東狐)、愛本新門徒中

九月十七日 定刻六時五十分に、地鉄バスが迎えに来る。運転手、添乗員、ガイドさんに挨拶して乗り込む。若葉で二人、荻生で一人、生地で二人、魚津で二人拾って、車は滑川から高速自動車道路に入る。

女性八名、男性三名の高山一泊旅行は、黒西組寺族婦人会結成十年の記念行事である。坊守さん方にまじって、組長、小生、照行寺の三人は、便乗組である。一点の汚れなき秋晴れの下、くるまは、高速道路を砺波に向かう。対向車も殆んど無く、一面の芒の穂が太陽に光って、壮観である。快適な走行一時間半、砺波ICで、百五

十六号線に移る。庄川沿いの五箇山に向う道路も、スノーシェッド、トンネル工事も完成して、往年の秘境の趣きは無くなっている。鉄筋の近代的小学校、洒落たデザイン民俗館等々、驚くばかり。十時半、西赤尾で下車。行徳寺は、道宗の寺。此処も、新しい宝物館が出来ており、蓮如上人真筆御文、道宗心得二十一箇條真筆から、棟方志功、柳宗悦、河井寛次郎、バーナードリーチの作品も陳列されている。合掌作りの岩瀬家を見学して、旅館で昼食。素朴な山菜料理も、空腹の私達には御馳

住職日記



走だ。高山へ向う途中も、新しい飛越五橋を通り、御母衣ダムを通過する景観は見事である。ロックフィル型ダムの一つ異様な姿が印象的。三百六十戸が、水没の底にあるとか。名利、照蓮寺は、幸い高山城山に移されて明日の見学コースに入っている。

予定より早く百五十八号線に入る。白川郷は通過。飛騨民俗館に寄る。此の辺り、飛騨の里と称して、紙抄き小屋、中切土蔵、柚小屋、火の見櫓等々、昔の面影が保存されている。四時半、旅館に入る。松倉大臣

という名が面白い。宿の浴衣に着替えて、夕食迄の間テレビで相撲を見る。大錦、若の花を破る一番面白し。

夕食は、飛騨名産の数々なり。酔いぎましに飛騨物産館迄出かける。横にグリーンホテルなる八階建あり。春慶塗りの花活けをかう。四千五百円也。入浴後、九時、男性三人で床に就く。疲れたせいだろう、ぐっすり眠られた。

飛騨路にも 若者一杯 秋日和
ダム真下 莊川桜 赤とんぼ

寺

十二月

- 一日 お講 下立愛本
- 二日 愛本新・中ノ口・報恩講
- 三日 下村 報恩講
- 四日
- 五日 下立愛本 報恩講
- 六日 内山 報恩講
- 七日 お講 浦山
- 八日 音沢 報恩講
- 九日 音沢 報恩講
- 十日 日曜学校
- 十一日 除夜の鐘

雪ん子劇団県大会で奨励賞



善巧寺の教化活動の一つとして売り出し中の「こぼの教室・雪ん子劇団」が、この九月、県大会に出演し、見事、奨励賞を獲得しました。富山県芸術文化協会主催のこどもフェスティバルは、県下の児童文化団体が一堂に会して日頃の成果を競い合う大会で、ことしで四回目を迎えます。雪ん子劇団は今

手話ミュージカルで圧倒
各方面から出演交渉も

年初出場でありましたが、国際障害者年にちなんで手話をとり入れたミュージカル「うちのとうちゃんえらいんだ」で話題を独占、新聞、テレビにも大きくとりあげられておりました。

九月十三日の当日は三十余名の劇団員、教育文化センター大ホールのスポットライトを浴びてい

夏の一泊聞法



さか緊張気味でしたが、堂々たる演技で観客を圧倒したことでした。なお、これがご縁となって同劇団は文部省・県・町教委から文化活動奨励団体に指定され、県内外のあちこちから出演依頼も届いており、劇団結成二年目にして、うれしい成長ぶりをみせてくれています。

今年で五回目を迎えた夏の夜の「一泊聞法」。おつとめの声は練習の甲斐あつて年々高まり、お参りも夜、朝ともふえてきました。

講師は、若院の実兄で行信教授の文の「それ菩薩の仏に帰するは孝子の父母に帰し、忠臣の君后に帰して、動静已に非ず」という一節をとりあげて、宗祖の人となり

を温かく説いてくださいました。なお、今回から、寺のフトンが新しくなり、寝心地も上々だったようです。

若手落語会

10月21日7時半

六月のにぎやかな名人落語とちがって、今回は若手の落語をじっくりと聞かせていただく会です。顔ぶれは、この六月にも出演した入船亭扇好と柳家〆治、古今亭

朝太の二ツ目トリオ。

三人とも二年前の同じ日に来院して第一回の若手落語会をやったメンバー。芸も人気も二年間でずいぶん上昇したようであります。

主催はおなじみの夢の会。秋の夜長、落語が好きな方。おさそい合わせの上、是非のお運びを。

合掌

秋の運動会ふうにならば、第三コーナーをまわっていいよ最後の直線コース。ゴールめがけてまっしぐら……というところでありましょう。

五年も前から、寺の器と心の器を……とすすめてまいりました善巧寺の大法要の準備もいよいよ最後の直線コースです。

寺の器は？ 建設事業はじつにスムーズに事を運び、空華殿、門徒集会所、庫裡修復、整備、そしていま、内陣の荘厳が皆さんの力ですすめられています。

そして心の器は？ もちろんこれは一生勉強でありましょうが、各地でお座が催され、おつとめの練習会がさかんになり、こどもたちの会や壮年の会もはなばなしい活躍です。明教院の法脈——空華盛のよみがえりも夢ではなくあります。うれしいかぎりではありませんか。

護法、愛山——念仏をよろこび、寺を愛する——五年前に確め合ったこの精神がいま具現しつつあるようです。



ご寄進

大だいこ 宇奈月夢を語る会のみなさん。これまで長く破れだこのままだったのを、盆踊りをにぎやかに……ときれいにはりかえて下さいました。御披露は八月十五日の盆踊り。しんらん音頭に合わせて、ドンドンのドンと打ちならしムードを盛り上げてくださいました。ようこそ、ようこそ。

